

手づくり文化躍動

市内の小中高生を中心に活動するミュージカル劇団「ドリーム☆キッズ」の第14回ミュージカル公演「おとぎの森の大冒険！〜さがせ！私の物語〜」(公益財団法人登米文化振興財団主催)は9月10、11の両日、登米祝祭劇場で開かれ、キャスト、スタッフ約100人の手づくり舞台が、詰め掛けた観客を魅了した。涙あり、笑いあり、感動ありの舞台をカメラが追った。



1 全身でメッセージを送る団員たち 2 集めたアイテムを、牛のミルク(中央)が飲みこみ乳を搾る 3 役者をメイクするスタッフ。裏方は成立する 4 「あづい〜」。ずーずーでコミカルな動きをする姫(右)。笑いと登米市らしさを織り込むのがドリーム☆キッズ流 5 2日間約1300人の観客が訪れた 6 チルチルミチルやキノキオラ、童話の主人公が勢ぞろい 7 感動のクライマックス。女巨人に全てを打ち明け、許しを願うヒカルたち。思いは届いた。

あらすじ

どこにでもいるきょうだいの陽太とヒカル。「今のままではだめだ」と悩んでいたヒカルは、不思議な森に迷い込む。そこで出会ったのは、豆の木のジャックやシンデレラら、おとぎ話の主人公たち。彼らも迷っていた。ヒカルがいる森は、迷える者が集まる「迷いの森」だった。

途方にくれるヒカルに森の番人が告げた。「3日間で4つのアイテムを集める」。集められれば、願いがかなうという。

兄そっくりなサンとともに、アイテム集めに奔走するヒカル。事がうまく進まず、不満を募らせる。「うまくいかないのは自分の責任ではない」。おとぎ話の主人公たちも同じことを思っていた。ジャックは女の巨人に追われ、自分が助かるために嘘をついた。やがて嘘がばれ、巨人に問い詰められる。みんなを守ろうとしたサンは、巨人に投げ飛ばされ行方不明に。そのときみんなが気づいた。

「良いも悪いも自分で決めた結果。逃げて何も始まらない」と。

「劇団ドリーム☆キッズ」は、地域に根ざして活動するミュージカル劇団だ。(公財)登米文化振興財団が、02年9月に開いたミュージカルワークショップ「祝祭子ども隊」これに参加した子どもと保護者たちが中心となり、同年11月に結成した。

団員は市内と近隣市町の小中高生で構成され、現在36人が在籍。今回の公演には、団員以外に公募した準キャスト2人も出演している。運営、広報活動、舞台道具や衣装の製作など、ほとんどの役割を保護者や地域のボランティアが担う。年1回の公演に向けて、子どもと大人が1年がかりで準備をしている。

舞台の脚本はオリジナルで、時代に合ったものをテーマに創作している。その中に、登米地域をイメージさせるものが織り込まれている。

同財団の佐藤寛一理事長は「15年も活動を続けられたのは、関係者の努力はもとより、支援いただいた多くの皆さんのお陰。この劇団は本市だからこそできる取り組み。今後も、登米地域ならではの活動を展開したい」と、地域文化の創造と発信に注力していく考えだ。

「ヒカル」を演じた伊藤愛渚さん
登米高1年(東和町錦織1区)

仲間と越えた重庄
いつかは演じたいと思っていた主役。選ばれてうれしかったです。でも、その重庄に悩む日々でした。仲間が気持ちを打ち明けると「私たちも不安だよ」と。そこから吹っ切られて、本番では最高の演技ができました。

Interview

Chiba Yumi
千葉由美さん
中田町加賀野一

今回で5回目の鑑賞です。いつも子どもと前の席で見えています。団員の演技とチームワークに毎回感心しています。

Arai Yumeki
荒井夢姫さん
登米町金沢山

アリス役とキキ役が友達で、同級生と見に来ました。舞台上の友達は、歌も演技もうまくてかっこよかったです。

Abe Takeshi Sosuke
阿部猛さん・壮翼君
迫町山の内

親子4人で来ました。みんな、よい表情で演技しており、見ていると楽しくなりました。ストーリーも良く、感動しました。

Chiba Takeru
千葉健さん
登米高2年(迫町萩洗)

「陽太(サン)」を演じた

全支援者に感謝を
主役を一昨年経験していたので、自分が「ヒカル」をリードする役割だと思っていました。公演は、お客さんも自分たちも楽しめたと感じています。ドリーム☆キッズを、支えてくれる全ての人に感謝しています。

Ito Manami
伊藤愛渚さん
登米高1年(東和町錦織1区)

仲間と越えた重庄
いつかは演じたいと思っていた主役。選ばれてうれしかったです。でも、その重庄に悩む日々でした。仲間が気持ちを打ち明けると「私たちも不安だよ」と。そこから吹っ切られて、本番では最高の演技ができました。

Ito Manami
伊藤愛渚さん
登米高1年(東和町錦織1区)

「ヒカル」を演じた

仲間と越えた重庄
いつかは演じたいと思っていた主役。選ばれてうれしかったです。でも、その重庄に悩む日々でした。仲間が気持ちを打ち明けると「私たちも不安だよ」と。そこから吹っ切られて、本番では最高の演技ができました。